

第4回「弘前市のまちづくりを考えよう」 市民会議(ワークショップ)の進め方

1 第4回ワークショップの目的

- ◆これまでの議論をふまえ取りまとめられた「弘前市の20年後の将来都市像(案)」を確認する。
- ◆テーマごとに、「弘前市の20年後の将来都市像(案)」の実現に向けて、「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」について洗い出す。

2 本日のプログラム

タイムテーブル (予定)	内 容	備考
13時30分 ～13時35分	開会	
13時35分 ～13時50分	1 はじめに (1) 配布資料の確認 (2) 本日のプログラム	事務局からご説明します
13時50分 ～14時00分	2 弘前市の20年後の将来都市像(案)について (1) とりまとめ結果のご報告 (2) 今後の進め方について	
14時00分 ～15時45分	3 ワークショップの進め方について (1) ワークショップの進め方 (2) グループ分け	
14時00分 ～15時45分	<グループごとの検討> 4 ワークショップによる検討 (1) 弘前市の20年後の将来都市像(案)の実現に向けて、「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」の洗い出し (2) 出された意見のとりまとめ	議論の進行状況により適宜ご休憩下さい
15時45分 ～16時00分	<全体会議> 5 本日の検討結果の振り返り (1) 本日の検討結果の発表(各3分以内) (2) 次回の日程とテーマの説明	発表者は各グループの話し合いで決定します
16時00分	閉会	

3 検討テーマ

今回からは、希望するテーマごとのグループに別れ検討を行います。それぞれのテーマで「弘前市の20年後の将来都市像(案)」の実現に向けて、「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」とは何かについてご議論いただきます。

＜検討テーマ等＞

検討テーマ	主な論点
ひとづくり	「弘前市の 20 年後の将来都市像（案）」の実現に向けて、「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」とは何か
くらしづくり	
なりわいづくり	
まちづくり	

4 第4回目のワークショップの具体的な進め方

※希望するテーマごとに4つのグループに分かれて検討を行います。

- 1) 「弘前市の 20 年後の将来都市像（案）」の実現のために、「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」を検討いただきます。

【目安の時間：30 分程度】

- 一人ずつ順番に、ワークシートに書き出したアイデアを発表し合い、（テーマごとにシートを切り離してから）模造紙上に貼り出します。

＜書くときのポイント＞

- ・「ご自身の身の周りで具体的に課題となっていること」、「これからやってみたいこと」、「所属されている組織等でできること」などを参考に書いてみて下さい。
- ・20 年を意識しつつ、今後4年間で取り組むことをイメージしてお書き下さい
- ・沢山アイデアがある中でも、特に重要だと思うものについて書いて下さい。

第4回市民会議(ワークショップ) 用ワークシート

市民等が主体となって取り組むべきこと・課題

将来都市像の実現に向けて、_____

に取り組むべきと考えます

市民等が主体となって取り組むべきこと・課題

将来都市像の実現に向けて、_____

ワークシートは市民会議当日にお配りいたします

【参考：記入例】

- 例1 社会全体で子供を育てる環境をつくり、子育て家庭の不安や負担を軽くするため、多様な世代が交流する機会づくりや、学校・地域・家庭の連携を進める
- 例2 誰もが住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らすことができるように、地域の健康づくりや介護予防のための運動に多くの市民が参加するよう促す
- 例3 弘前への外国人の観光客を市民主体で積極的に誘致する
- 例4 地域の公園をいつも綺麗に保つために、清掃活動に積極的に参加する

2) 発表された意見を確認しとりまとめます

【目安の時間：75分程度】

- 模造紙を見ながら、意見の分類や似た意見等を確認し合います。
- 出された意見の中から、このグループが中心となって、今後4年間に取り組むべき課題を取りまとめます。

<とりまとめのポイント>

- ・なるべく、メンバーの普段の活動内容などを組み合わせて、これまでの活動をより拡大させたり、新たな活動として発展させたりできるようにして下さい。



3) 本日の検討結果を振り返ります

【目安の時間：15分程度】

- 各グループの検討結果を報告し合い、参加メンバー全員で本日の検討結果を共有します。

以上、本日の予定

※第5回（10月19日）では、第4回で出された意見をもとに、「市民委員による具体的な取組・目標」の検討を行います。

※後日、事務局が各グループの検討結果をプリントにとりまとめ、参加メンバー全員に郵送します。

※事前に「市民委員による具体的に取組・目標」をご記入いただくためのワークシートを送らせていただきますので、第5回に向けた検討の準備をお願いします。

5 円滑な運営に向けた基本ルール

参加メンバーの活発な議論を促し、より実りの多い会議とするための基本ルールを、次のように定めます。これらのルールを守っていただき、有意義な話し合いを進めてまいりたいと思いますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

*** 円滑な運営に向けた会議の基本ルール ***

- ①メンバー全員が対等な立場にあり、自由な発言を行うことを尊重しましょう。
- ②各メンバーの発言を尊重し、はじめから否定することのないよう配慮しましょう。
また、メンバーの話しを遮るような発言は慎み、円滑な会議進行に努めましょう。
- ③限られた時間の中、各メンバーができるだけ多く発言できるよう、発言時間が長くないよう配慮しましょう。
- ④特定の個人や団体などのひぼう中傷につながる発言はやめましょう。
- ⑤全体を見渡した視点から議論を行い、特定の地域や団体などの個別利益を優先する立場に陥らないようにしましょう。
- ⑥意見が対立した場合、問題の所在などを明らかにした上、合意形成に向けてお互いに歩み寄りましょう。
- ⑦いったん合意した内容は尊重し、議論を前に進めましょう。
- ⑧会議の内容の取扱いについては、十分に注意しましょう。（ブログへの不適切な書き込みなど）
- ⑨個人情報については、保護の重要性を十分認識し、メンバーの利益を害することのないよう努めましょう。

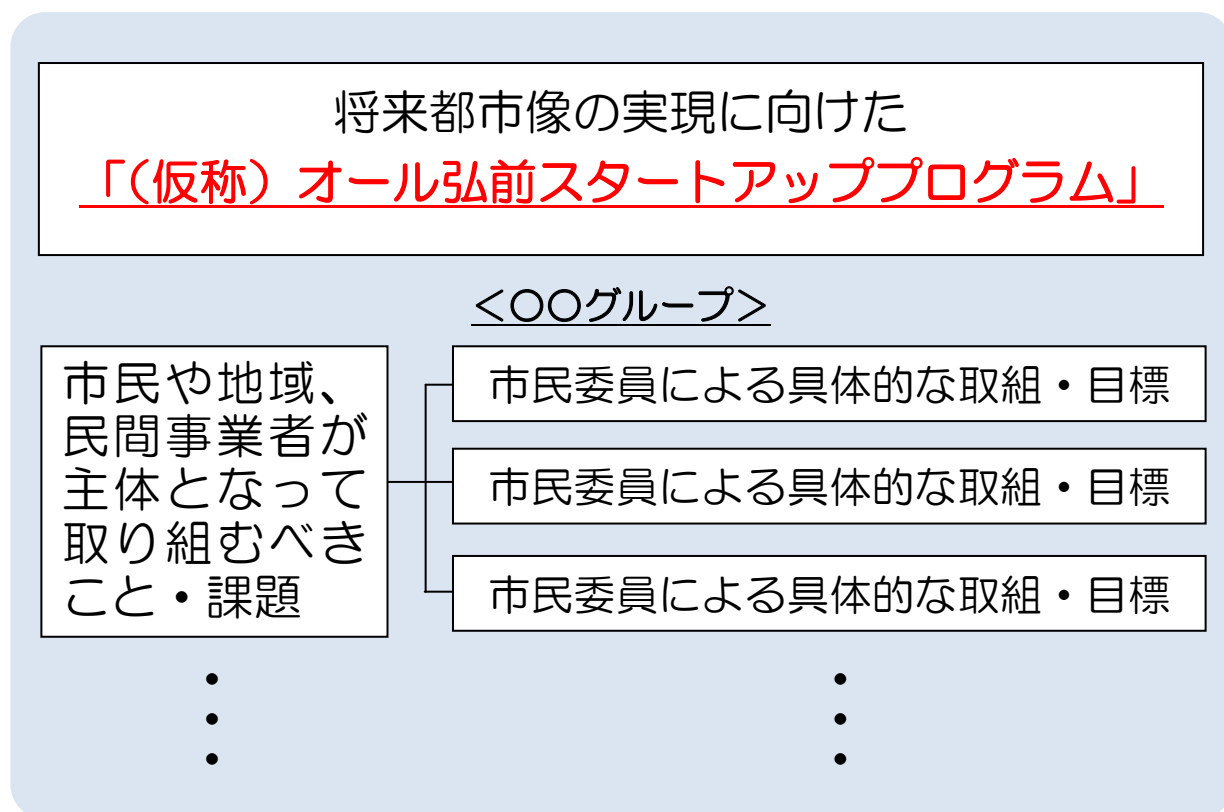
第4・5回市民ワークショップの流れと 当日までのお願い

＜第4・5回市民ワークショップの流れ＞

第4・5回市民ワークショップでは、これまでのワークショップで検討した「弘前市の20年後の将来都市像（案）」の実現に向けて、今後4年間の「（仮称）オール弘前スタートアッププログラム」を検討し、取りまとめていただきます。

具体的には、第4回市民ワークショップでは「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」について、第5回市民ワークショップでは、（第4回の議論に基づき）「市民による具体的な取組・目標」をについて議論いただきます。

＜アクションプログラムのイメージ＞



第4回の市民ワーク
ショップで議論予定

第5回の市民ワーク
ショップで議論予定

＜第4回市民ワークショップ 当日までのお願い＞

1) グループ組み換えのための、希望する分野のご検討

第4・5回市民ワークショップでは、「ひとづくり」「くらしづくり」「なりわいづくり」「まちづくり」の4つのテーマごとに再度グループを組み換えいたします。

グループの組み換えは、ワークショップ当日、各委員の希望を募って行いたいと思いますので、予め希望するグループをご検討いただければ幸いです（以下の分類を参考にして下さい）。

グループ テーマ	関連する 行政活動の領域	取組の方向性の例
ひと づくり	子育て支援、学校・青少年・生涯教育、市民協働推進 など	子どもの遊ぶ機会の提供、大学・研究機関と学校の連携、地域と学校の連携、地域コミュニティづくり など
くらし づくり	保健・医療・福祉、スポーツ、歴史・文化、防犯・交通安全 など	高齢者のための健康づくり活動・介護予防活動、地域伝統のお祭り・イベント、防犯のための地域見回り活動 など
なりわい づくり	農業・観光・商工業振興、就労支援 など	地域農産物を使った新しい商品の企画、観光ボランティア活動、外国への弘前のPR活動、コミュニティビジネスの立ち上げ など
まち づくり	環境保全・環境対策、公共交通、防災（雪対策等） など	豊かな自然の保全・活用、ごみ対策（廃棄物の削減、リサイクル）、地域住民による公園や道路の管理、 など

2) 取組のアイデアのご検討

第4回市民ワークショップでは「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」について検討いただきます。

記入用のワークシートは当日に配布いたしますが、限りある時間の中で中身の濃い話し合いを行うため、皆さまには「これまでの市民会議で提案された将来都市像の観点」（別添資料）を念頭に、そのアイデアを予めご検討しておいていただければ幸いです（以下の記入イメージを参考にして下さい）。

【当日のワークシートの記入イメージ】

- ・「ご自身の身の周りで具体的に課題となっていること」、「これからやってみたいこと」、「所属されている組織等できること」などにに基づき記入。
- ・メンバーの普段の活動内容などを組み合わせて、これまでの活動をより拡大させたり、新たな活動として発展させたりすることを念頭に置いてお書き下さい。

第4回市民会議(ワークショップ) 用ワークシート	
市民等が主体となって取り組むべきこと・課題	
将来都市像の実現に向けて、	
弘前への外国人観光客を市民主体で積極的に誘致すること	
に取り組むべきと考えます	

※ワークシートは当日配布させていただきます

社会経済の将来展望と弘前市の課題

■ 人口減少・超高齢社会の到来

今後我が国の人口は、長期間にわたる減少局面に突入するとともに、世界的にも突出した超高齢社会を迎えると予測されています。地方都市である弘前市ではその傾向はより顕著に現れ、平成 27 (2015) 年から平成 47 (2035) 年にかけて、総人口は 2 割弱減ると見込まれています。また高齢化率は、平成 27 (2015) 年の 30.7%から平成 47 (2035) 年には 43.9%にまで達し、65 歳移以上高齢者の絶対数自体も伸び続けると推計されています¹。

このような急激な人口減少・超高齢社会の到来は、労働力や消費活動の減少による経済規模の縮小、税収減、社会保障費の増大など、総合的な国力・地域活力の低下を引き起こします。

＜弘前市の課題＞

どの地域でも人口減少・超高齢化が進む中であっても、津軽地方一帯を支える弘前市としては、今後も活力を可能な限り維持（あるいは減少の速度を緩和）していくことが求められます。そのためには、女性の就業率向上、若年層や子育て世代の定住人口確保、健康寿命の増進などを強く推し進めることが必要です。

同時に、人口減少・超高齢社会の到来が不可避であることを前提とした、適切な都市・地域規模の模索と、それを見据えた各種政策の展開が求められています。

■ 国・地域間競争の激化と地域格差の拡大

人・モノ・金・情報などが世界規模で移動するグローバル経済の中で、人口減少・超高齢化が進む日本は、競争力の相対的な低下や産業の空洞化が進行すると懸念されます。一方、新興国・発展途上国は台頭著しく、世界全体に占める中間所得者購買力の中国・インドの割合は、平成 12 (2000) 年時点の数%から 2030 年には2カ国のみで 40%にまで達するなど、世界経済の成長や消費の場が日米欧から新興国・発展途上国に大きくシフトしていくと予想されています²。

加えて、日本国内においても、どの地域も人口減少や少子高齢化が避けられない状況の中、限られたパイの獲得競争により人材等の各種資源がますます大都市圏に集中することが予想されます。平成 22 年時点の青森県民 1 人あたり所得は、47 都道府中 38 番目と非常に低い水準にありますが、今後も大都市部との格差は一層拡大すると考えられます。

＜弘前市の課題＞

地方都市である弘前市が地域の自立性や持続性を今後も維持していくためには、地域独自の魅力や資源を最大限に活用するとともに、市外の消費の呼び込み・収入増のための付加価値を重視した地域産業の戦略的育成、雇用の確保が求められます。特に、グローバル化をチャンスと捉え海外観光客を積極的に呼びこむ等の取組も必要不可欠です。

同時に、学園都市である強みを活かし、国際化・グローバル化時代に適応した人材の育成や、海外留学生といった新しい活力を積極的に取り入れることも強く求められます。

¹ 弘前市推計による

² OECD

■ 財政状況の逼迫と公共サービスのあり方の変容

国及び地方の長期債務残高は、平成 25 年度末に 977 兆円（対 GDP 比 200%）にまで達すると見込まれており³、国をあげた財政健全化の取組が不可避となっています。それにより、地方交付税や国庫支出金は今後一層抑制基調になると予想されます。加えて、生産年齢人口の減少や地価の下落が今後も続くと見込まれることから、市の税収は中長期的に減収傾向になると考えられます。

一方、市の総人口に占める 75 歳以上高齢者の割合は、平成 47（2035）年には 29.5%にまで達すると推計されており、高齢化率の上昇等による社会保障関係費をはじめとした支出増の圧力もまた、今後更に高まると考えられます。

このように、自治体財政の将来的な見通しは歳入・歳出の両面で非常に厳しく、自治体の存続自体が危ぶまれる状況となっています。

＜弘前市の課題＞

比較的余裕のある現段階から、不要不急な事業の統廃合による徹底した歳出削減や、税・料収入増のための取組の推進、限られた政策資源を選択と集中により効果的・効率的に活用する仕組みづくり等、強く無駄の無い行政組織の構築がこれまで以上に求められています。

また、これまでと同じ量・質の公共サービスを行政のみが将来にわたって提供し続けることは困難であることから、行政とともに市民や地域、民間事業者等が連携し、「オール弘前」で地域経営を行なう体制構築が必要不可欠となっています。

■ 社会的リスクの多様化・増大

様々な変化が急速に進行する現代は不確実性が高く、社会が抱えるリスクもまた多様化・増大の傾向にあると考えられます。

欧州財政危機のように、社会経済のグローバル化や情報化の進展により、遠くの地域の出来事が私達の日常生活に与える影響の度合いは今後ますます増える可能性があります。

また、近年頻発する局地的大雨や豪雪といった気象災害、今後発生が予想される大規模地震等に対して、その対策・態勢を改めて検討・構築することが急務となっています。

人口の高齢化に関しては、健康面や日常生活におけるリスクに加え、事故や災害等から社会的に弱い立場の人達をどのように保護していくかも大きな課題となります。さらに人間だけでなく、建物や道路といった社会インフラ等の老朽化も本格的に始まっており、今後どのように維持管理していくべきかが問題となります。

＜弘前市の課題＞

このような社会的リスクは正確な予測やコントロールが難しいと考えられることから、単に対処療法的な対策ではなく、様々なリスクにも柔軟に対応できる地域づくりを行なうことが求められます。ねぶた祭をはじめとした地域コミュニティが残っていることの強みを活かし、自助・共助・公助のバランスをとりながら、地域や市民間の連帯を更に強めていくことが求められます。

³ 財務省「国及び地方の長期債務残高」

弘前市の20年後の将来都市像（目指すべき姿）

将来の見通しが非常に厳しい中でも、行政、市民や地域、民間事業者等が一体となり、生活に必要な機能やまちの豊かさ・魅力を維持し、都市としての競争力を高める地域づくりを強く推進します。

このような考えのもと、弘前市の20年後の将来都市像（目指すべき姿）について、「ひとづくり」「くらしづくり」「なりわいづくり」「まちづくり」の4つの観点から、以下の様に定めます。

■ ひとづくり

一人ひとりが自立した 多様・多才な「弘前人」が活躍するまち

＜目指すべき姿＞

- ・地域が子どもたちの笑顔であふれ、のびのびと健やかに育っている
- ・郷土への愛と自立心を持った人材が、地域の抱える様々な課題を解決している
- ・個性や多様性を尊重する気風を備え、国際的に通用する力を持った人材であふれている

■ くらしづくり

郷土の豊かな歴史・文化の中で いつまでも生き活きと安心して暮らせるまち

＜目指すべき姿＞

- ・長い歴史の中で育まれた郷土の伝統・文化を尊重し、その豊かさが将来にわたって継承されている
- ・どんな人でも自分自身の持てる力を生き活きと発揮し、元気に生活できている
- ・事故や災害への対応力があり、安全・安心に暮らせる環境が整えられている

■ なりわいづくり

高い産業競争力を持ち 人々が絶え間なく交流するまち

<目指すべき姿>

- ・グローバル経済の中でも通用する産業競争力を持ち、豊かな生活を維持するための所得を得ることができている
- ・市内外の多くの人々がまちに訪れ、まちの活気が地域内に循環している
- ・老若男女がそれぞれの生活スタイルに合わせ、生き活きと働いている

■ まちづくり

しなやかな強さと 快適さを備えた魅力的なまち

<目指すべき姿>

- ・必要な都市機能が拠点ごとに集約され、拠点を結ぶ公共交通が確保されている
- ・豪雪をはじめとした災害に強く、被害が最小限に抑えられている
- ・豊かな自然環境と清潔・魅力的な都市生活環境が保たれている
- ・自然エネルギーが積極的に活用され、地域内の生活需要が満たされている

これまでの市民会議で提案された将来都市像の観点

分野	将来都市像の観点
ひと	自立心、志ある人材の育成
	郷土愛や、地域の歴史・伝統・文化を大切にする心
	学園都市、子どもの育成、教育
	市民どうしの助け合いや、横の連携の推進
	多世代の活躍、元気・思いやり
	多様な価値観の受容
	国際化・グローバル化への対応
くらし	充実した子育て環境の整備
	健康・元気・長寿
	安全・安心な暮らし
	独自のライフスタイル・まち
	出会い・交流・助け合い
	豊かな歴史・伝統・文化
なりわい	付加価値の高い産業（農業）
	活性化、人の呼び込み
	観光業の強化
	多様な働き方の推進
	外貨の獲得、市外の消費の呼び込み
	シティセールス・シティプロモーション
	若者の雇用の確保
	食料自給率の向上
まち	弘前にしかない魅力・歴史・伝統の継承
	コミュニケーション・交流・集いの場
	自然との共生
	災害（特に雪）に強いまち
	交通弱者への配慮
	都市基盤のコンパクト化
	エネルギー自給率の向上

第4回市民会議(ワークショップ) 用ワークシート

市民等が主体となって取り組むべきこと・課題

将来都市像の実現に向けて、

に取り組むべきと考えます

市民等が主体となって取り組むべきこと・課題

将来都市像の実現に向けて、

に取り組むべきと考えます

市民等が主体となって取り組むべきこと・課題

将来都市像の実現に向けて、

に取り組むべきと考えます